府障教ニュース

大阪府立障害児学校教職員組合
大阪市天王寺区東高津町７－１１
府教育会館７０４号
(TEL)6765-8904
(FAX)6765-8905

府障教青年部主催　21校332人が参加

白熱！秋の恒例ソフトボール大会

９月１７日に府障教青年部主催のソフトボール大会が実施されました。当日は雨が心配されましたが、天候にも恵まれ、無事に交野支援学校四條畷校・摂津支援学校・堺聴覚支援学校の三会場でとり行うことができました。三会場合わせて２１分会２３チーム、３３２人が参加しました。

交野支援学校四條畷校(北会場１)では、四條畷、寝屋川、東大阪、枚方、むらの、刀根山、八尾、守口の８チームが参加しました。どのチームも気合十分で、第一試合から熱戦が繰り広げられました。残念ながら負けてしまったチームも、交流試合で和気あいあいと楽しくプレイしていました。ソフトボール未経験の女性やベテランの先生も打席に立ち、ヒットが出ると歓声が上がりました。激戦を勝ち抜き、決勝に進んだのは、八尾支援学校と昨年度優勝校の寝屋川支援学校、１８対８で優勝を手にしたのは八尾支援学校でした。

八尾支援学校のみなさん

摂津支援学校(北会場２)では、摂津、高槻、箕面、吹田、茨木の５分会５チームが参加しました。決勝に進んだのは、会場校の摂津支援学校と吹田支援学校。両者一歩も譲らない熱戦を制し、９対８でみごと優勝に輝いたのは、摂津支援学校！昨年度に引き続き、二連覇となりました。

ふとん太鼓の音色が鳴り響く中行われた堺聴覚支援学校の南会場は、堺聴覚、生野聴覚、だいせん、岸和田、西浦、佐野、和泉、泉南、藤井寺の９分会９チームが参加し、たくさんの熱気に包まれました。

摂津支援学校のみなさん

初心者が塁に出たりすると、相手チームでも声援が送られるなど、とても和気あいあいと交流を深めていました。決勝は初戦から高得点を取った藤井寺支援と、準決勝で昨年優勝校の西浦支援に勝利した泉南支援で、接戦の末に今年は泉南支援学校が優勝しました。

泉南支援学校のみなさん

参加者の感想を一部紹介します。

○他校との交流があり、すごく楽しい大会でした。来年は優勝めざして練習してくるので、またよろしくお願いします。

○楽しく交流できてよかったです。普段交流の少ない他学部の先生と関わる機会になって楽しかったです。

○とても楽しかったです。こういった機会がもっとあれば仕事もがんばれます！

○今回初めて参加させていただきました。仕事をはじめてからスポーツをする機会が少なくなっていたのでとても楽しむことができました。また色んな方々と交流を深めることができたので、来年も参加したいと思いました。

○若いチーム、年齢層が広いチームそれぞれあって、笑いあり、とてもよかったです。交流試合もたくさんさせていただき、合同チームとしてとても楽しくできました。ありがとうございます！

府障教ホームページアドレス　http://www1a.biglobe.ne.jp/fushou/　Eメール アドレス ： fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp

書記局のひとりごと

生命の最小単位である細胞内では、古くなったタンパク質が壊される一方、新しいタンパク質がつくられるというリサイクルの仕組みがあります。これは、「オートファジー(自食作用)」と言われ、１９６０年代に電子顕微鏡によって確認されていましたが、生理学的な意味など、詳しいことは長い間分かりませんでした。

しかし、１９８０年代に大隅良典さん(当時東京工業大学特任教授)たちが、酵母にもオートファジーが存在することを確認し、研究が活発化してオートファジーの理解は進みました。今年のノーベル医学・生理学賞の受賞は、オートファジーの仕組みを分子レベルで解明し、その意味や役割を明らかにする上で、大きな貢献をしたことが評価されたためです。

オートファジーの主な役割は、細胞内に古いタンパク質がたまらないようにして病気の発症を防ぐことと、飢餓状態に陥った際に細胞内のタンパク質の一部を分解することです。どちらも生じたアミノ酸は、必要なタンパク質を新たにつくるために使われると考えられています。

受賞の記者会見で大隅さんは、科学はどこに向かっているかは最初から分からないものだと強調しました。その上で、数年後に企業化できるかではなく、「役に立つのは１００年先かもしれない。将来をみすえて、科学を文化として認めてくれる社会になるよう願っている」と訴えました。

また、大隅さんは次世代に対して「分かった気分になっているが、実は分かっていないことはたくさんある。『何で？』と思うことを大事にする子どもたちが増えたら、日本の将来は安泰だ」と希望を託しました。

各ブロックのとりくみ
紹介　その3

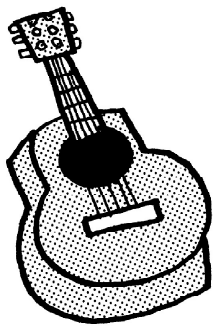
「今を楽しく」をもっと大事に！

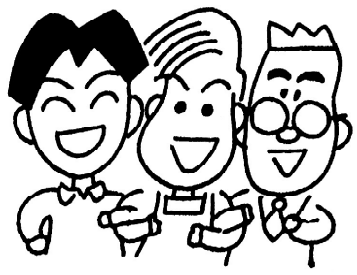
堺・泉北・泉南地域支援学校合同学習会

たくさんの青年が集まりました

８月２１日、佐野支援学校を会場に「堺・泉北・泉南地域支援学校合同学習会」が開催されました。「誰もが主役　～うた、リズム、ゲームで楽しく勉強！」というテーマで、五島丸太さん（元堺市立百舌鳥支援学校教諭）を講師に楽しい時間を過ごしました。

五島さんには、子どもの発達・障害などを考慮し、どの子も主人公になれるように工夫した、うた・身体遊び・ダンス・ゲームを数多く披露していただきました。常に子どもたちを中心に考えて、みんなで楽しめる実践の引き出しを、豊富に持っておられることに、参加者の多くがうらやましく感じていたと思います。





１４人の参加者の大半が青年で、終了後たくさんの方から感想が寄せられました。特に、就労を目指すことに特化したキャリア教育が横行するなか、「将来のことは確かに大切だが、『今を楽しく』を、もっと追求していきたい」や「大人が楽しいことがまず大事」などの声があったことは印象的でした。

講師の五島丸太さん

そうだ！先輩に聞こう！ Vol.12

最近、個別の指導計画の中で「手だて」についての取り扱いが話題になっていますが、この評価はだれのために、どのような取り扱いを考えて書くべきなんでしょうか？　匿名（知的障害支援学校分会）３年目

評価はやはり子どものための評価だと思います。子どものために発達的視点を入れて書き、担任集団で共有し、子ども・保護者と確認し、その成長発達を喜び、次の目標へと繋げていくものだと思います。特に子どもの全体像を見据えた担任集団の議論は大切にしたいですね。

気を付けたいと思っている事は、子どもの発達の原動力や人格を置き去りにしないという事です。評価の時に「数値化」「行動化」「客観性」⇒「見てわかるチェックリスト」「細かく網羅されたスモールステップ」「客観的に測定可能なもの」だけを手掛かりにしてしまいがちです。これらを作成することが、目標のための目標、評価のための評価にならないよう、自己目的にならないよう、と思っています。今私たちが学校で作成している「個別の指導計画」「個別の支援計画」は、子どもの内面世界にも目を向け、私たちと保護者の共通理解に役立つものとして活用したいと思います。

私自身は、現在の「個別の指導計画」「個別の支援計画」は子どもに対してだけでなく、教師にも向けられているような気がします。また「キャリア教育」も「自己申告票」も、教育にはなじまない異質なもののように感じます。私たちは、競争の原理にさらされる事なく子どもにたっぷりの愛を注ぎたいですね。

職場の中でも〝熱い心と冷たい頭〟でいろんな人と沢山お話ししてくださいね。

ご質問にある議論の内容が十分にわかっていなくて、的外れな答えになっているかもしれません。真摯に向き合っておられるお姿が浮かび、私も刺激をいただきました。最近とみに思うことを併せて記してしまいましたが、障がい児教育を権利として切り拓いてきた先人たちから深く学び、お互い学び続けていきましょうね。がんばれ○○さん！

（西田尊代　東大阪支援学校分会　４２年目）

参加者の感想です！

○「やってみたいな」「明日からすぐ実践したくなる」と思えるものが沢山あって２学期からの授業が楽しみになりました。

○知らないことばかりだったので今日来てよかったです。ベテランの先生の話を聞く機会がなかなか無かったので、今回はよい機会になりました。今後もこのような学習会あればぜひ参加したいので、定期的に行ってほしいです。

○障害の重い子どもに何を狙うか、語っていただいたり、他の子どもたちと同じ条件で参加できる素敵なゲームが沢山あってイメージしやすかったです。